

オブジエクシヨン163

反逆編

岡森 利幸

本編は、次の13項目からなる。(文中敬称略)

以下の【】は、新聞記事・週刊誌の引用・要約を示す。

- ① 収容所で再教育されるウイグル族
- ② 自動運行システムは逆走を止められなかった
- ③ 森林の伐採が進む
- ④ 老後2000万円必要という根拠
- ⑤ 天皇が慰安婦に謝罪しろ
- ⑥ 戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか
- ⑦ 家事を手伝おうか
- ⑧ オレはひきこもりじゃない
- ⑨ オレの人生は何なんだ
- ⑩ 調子に乗っているから、みんなでいじめよう
- ⑪ いじめは解決した
- ⑫ オレはムシヨに行きたかない
- ⑬ 札幌・女兒衰弱死

① 収容所で再教育されるウイグル族

【毎日新聞朝刊2018/3/2 一面・新時代の中国

ウイグル監視社会、当局が分離（独立）派のテロを警戒。「黒い危機」につなぐとウイグル人が持っていたスマホの中のデータを見る。スマホ検閲がある。】

【毎日新聞朝刊2018/7/29 国際

「中国当局がテロ対策名目にウイグル族数十万人を拘束している」と米政権が中国当局を批判した。】

【毎日新聞朝刊2018/10/17 国際

中国、新華社報道「ウイグル族収容の施設内で言語教育をする」】

【毎日新聞朝刊2018/11/5 社会

中国、在日ウイグル人に募る不安。両親や弟が再教育施設に収容され、連絡が途絶えた。新疆ウイグル自治区（ウイグル族約1000万人）で数十万人収容か。今月10日に施設設置を促す改正条例案が新疆で施行された。テロや宗教過激主義の環境を取り除くことを目的とする。】

【毎日新聞朝刊2018/11/24 国際

中国ウイグル族再教育施設の元収容者たちが、日本

で証言した。「終日、革命歌を歌わせられ、党の政策を学習させられた」

施設では約10平方メートルの部屋に40〜50人を収容。ウイグル族やカザフ族などイスラム教を信仰する少数民族の男女がいた。元収容者の一人はカザフ政府の働きかけで17年秋に解放されるまで8カ月に及んだという。】

【毎日新聞朝刊 2019/3/9 国際

中国の宗教弾圧を米大使が強く批判した。新疆ウイグル、チベットなどでの例を取り上げ「大半の宗教を弾圧している」】

【毎日新聞朝刊 2019/3/13 国際

中国、全人代で、ウイグル族の収容に成果を誇示した。「テロ事件が2年3カ月発生していない」】

【毎日新聞朝刊 2019/5/29 国際

中国新疆での「ウイグル族収容」で非難が高まる。

「我々の理解では300万人近くが施設に拘束されているらしいとシュライバー米国防次官補が6月13日の記者会見で発言。中国は「職業技能教育訓練センター」と説明。今月になって英紙ガーディアンはここ数年20カ所余りのイスラム礼拝所モスクが取り壊されたと報道した。中国は一部メディア、外

交官にしか現地視察を認めていない。】

【毎日新聞朝刊 2019/7/7 国際

在日ウイグル族証言集会が東京都内で開かれた。証言者の一人、在米女性ヒデオで訴えた。強制収容で重度の精神病になったという。「食事も満足に与えられず、質問に答えられないと殴られた」】

「ここ数年20カ所余りのイスラム礼拝所モスクが取り壊された」という記事には、不確かなところがあるにせよ、異常なことが中国で起きていると認識を新たにさせられる。多数のモスクの破壊は、世界のイスラム教徒にとつとんでもない乱暴狼藉であり、1998年にバーミアンの大仏がタリバンに破壊された事件に匹敵するようなことだろう。

中国政府が、新疆ウイグル自治区に1000万人いるといわれるウイグル族を次々にほとんど強制的に収容施設に入れ、再教育しているというのは、数年前から国際社会に気づかれていた。その収容人数が、急激に拡大し、最近の情報では300万人といわれているから、すさまじい増え方だ。当初は成人男性が対象になっていたが、女子供にまで広げられていることがうかがえる。かなり大きな収容施設がいくつも必要になる

が、それを建設するのは今の中国では得意なところだ。

その目的として職業訓練などという体裁のよい名目
にしているが、再教育の内容は、思想や修身を叩き込
むものだ。言葉（漢語）を習わせるのはよいとしても
……。合法的な強制収容所になっている。教官に従わ
なければ、叩きのめされ、食事を与えられなかつたり
して生きては出られないという。出られたとしても、
ほとんど人間が変わってしまったという証言もある。

世界がウイグル族の窮状を伝えている。中国政府は
報道規制を強く敷いているが、どうしても国外に漏れ
出す。国際的に人権問題として関心が高まっており、
中国政府のやり方を非難・批判しているが、中国製は
例によって強硬な態度を崩さない。国際的に非難され
ても、中国政府は「内政問題だ、部外者は口を出すな」
といわんばかりに、逆切れるほどだ。「ま、つろ、わぬ
ものを迫害して、なにが悪い！」と言いたいのだろう。
海外に逃れたウイグル人の一部が、その実情を語る
うものなら、その家族たちは確実に収容所に送られて
しまう。

「家族がどうなってもいいのか、この映像を見ろ！」
と脅迫メールが送られて来た例もあるという。人質を
とってゆするやり方だ。この場合、身代金みしろきんをとる目的

ではなく、「テメーらが世界のどこにいても、オレた
ちが見ている。下手なことはしゃべるな！」という黒
いメッセージだ。

ウイグル自治区は広大な未開の地であり、ウイグル
族は中国政府にとって邪魔な存在であるらしい。その
自治区では、近年、漢族たちが進出し、ウイグル族が
押しやられている。ウイグル族がそれに反発し、集団
的な抗争になると、政府は一方的にウイグル族に非が
あるとし、「ウイグル族の暴動」として警察力で押さ
えつける構図になっている。2009年7月にウルム
チで恵きた「暴動」以来、ますます高圧的になってい
る。ウイグル族の連中は、反政府の武装勢力であり、
あるいは支援者なのだ。彼らが厳しい取り締まりに耐
えられず、「ささやかな武器」を持って立ち上がり、
官憲に抵抗でもすれば、「テロ事件」として徹底的に
武力鎮圧する。その際のウイグル族側の死傷者の数は
公式報道されないことになっている。

中央と地方の対立であり、民族対立であり、宗教対
立でもある。特に宗教に関して、中国政府は不寛容だ。
いわば「イスラム教を信じるやつのが知れない」の
だ。根深い差別と偏見がある。中国政府は、広大な領
土を統治するためには、宗教は邪魔な存在なのだ。チ

ベット仏教も、キリスト教も例外ではなく、政治的な介入をして抑制しようとしている。新興宗教など、狂信的な邪教として厳しく取り締まる。

政府としては、国民は国家の理念を理解し、国家主席の言葉を信じていけばいいのだ。つまり、政府の指導・方針に従っていればいい。政府中枢にいる幹部たちによる独裁的体制をさらに強固に築こうとする。その体制を揺るがすようなヤカラや、批判する者は、国家転覆罪で重罪に処される、あるいは拘束される。

② 自動運行システムは逆走を止められなかった

【毎日新聞朝刊 2019/6/2 社会】

横浜市内（新杉田駅と金沢八景駅の間）を結ぶ新交通システム「横浜シーサイドライン」の車両が、始発の新杉田駅で逆走した。約25メートル走って車止めに衝突し、約20人が負傷した。無人運転で運行していた。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/3 社会】

シーサイドライン、車両が逆送しても自動で止まる仕組みがなかった。自動列車運転装置（ATO）の交信記録には異常はなく、以下の手順で、それぞれ了解だった。

1. 進行方向の切り替え

2. 扉を閉める

3. 列車異常なし確認

4. 出発指令

コンピュータ制御で無人走行する新交通システムは、全国で7路線ある。システムに欠陥がある場合、他の事業者にも影響が及ぶ可能性が高い。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/4 社会】

車止めは衝撃を吸収する仕組みがあるが、約130センチ動いており、時速20キロ以上の速度が出ていた可能性がある。】

【毎日新聞夕刊 2019/6/6 社会】

逆走したシーサイドラインで、車両側の回路が断線していたことを明らかにした。進行方向の情報が伝わらず、逆走した可能性がある。配線は床下であり、断線しても覚知する仕組みはなかった。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/27 オピニオン・メディア時評】

〔自動運転と無人運転〕吉見宏

新交通システムは、無人の自動運転。】

この電車は、始発駅の新杉田を発車すると、なんと逆の方向に走り出し、構内の車止めに衝突した。乗客

の何人かけがをするほどの衝撃で、車止めに当たった。直前になってブレーキをかけた形跡もない。列車自身、走る先に何があるか、見えていなかった。

有人の場合でも、手違いにより列車を逆走させることはありえることだろう。でも、走り出せばすぐに気付く。シーサイドラインは気付かなかったところに一番の問題がある。その乗客たちは気付いたであろうけど。

横浜シーサイドラインは、新交通システムと呼ばれている「無人の自動運転システム」だが、これを自動運転システムというのはかなり「おこがましい」ところがある。列車が自律して動いているわけではなく、すべて遠隔操作によるものだからだ。遠隔にある制御部が、列車がどう動いているか、位置と速度を的確に把握していなければならぬが、わかっていないのは問題だろう。無人運転する新交通システムは、ほかにもいくつかあるが、同様な制御方式だという。

運航会社本社にある自動列車運転装置（ATO）の中央装置（以下、中央制御部と略称する）が、列車に対して「手取り足取り」する指示を出して、動かしている。指示通り動くものとして設計されている。

いくら忠実な機械でも、指示通りに動かないケースがあるのだ。今回のケースがそうだ。床下にある配線

が断線したことによって起きた可能性が高いといわれている。（ケーブルのコネクターが外れることはよくある）このシステムには苦言を呈せざるを得ない。問題点を列挙すると、

1. 中央制御部が電車の進行方向を制御する信号を送ったが、方向を切り替えたことの確認をしていない

中央制御部は指示をする信号を出し、電車側が受理したという返事をしているが、その後の「方向を実際に切り替えた」という実行の確認まではしていない。つまり「信号を出したのだから、切り替えたであろう」という思い込みをしている。実際は、その指示がモーター部に伝えられず、切り替えたことにならなかった。

2. 電車の中の信号線が切れたことが検知されない
これが直接の原因と推定されるが、信号線が切れたら、赤ランプがつくようなエラー表示がほしい。それを検知し、電車の側から、中央制御部に知らせる手段が必要だ。電車の運行に支障があるような重要な信号線が切れたのに平気な顔をしていることが一番まずい。

3. 中央制御部が、電車の逆走に気づいていない
電車の進行方向としては、前と後ろのどちらかだ。

その方向を把握していない。つまり、中央制御部は電車が「指示通りの方向に進んでいるだろう」と思い込んで、逆走していることを知らなかった。位置確認の機能が働いていなかったことになる。

GPSなどを備えていれば、少しでも動けば、電車の位置が移動するから、すぐにわかるものだ。（ただしトンネル内では使えない）

4. 電車が衝突の危険を検知していない

この電車は、逆方向を突っ走った。電車は前方の障害物を検知するような目を持っていないのだろうか。

いまどき乗用車でも、衝突を防止する装置（自動ブレーキ）が備えられている。走る前方に衝突の危険物があれば、運転者に警告するなり、自分でブレーキを効かすなりする。

車止めだけでなく、線路に人がいるとか、他の障害物がころがっているときには、電車がそれを検知し自動的にブレーキをかけるべきだろう。前方にある物体を感知するセンサーなら、自動ドアなどにも使われているありふれた技術だろう。

前方の状況をまったく見ずに突っ走るシステムには、恐ろしさが感じられる（それでも、便利なら私は利用する。事故になる確率は低いから）。横浜シーサイドラ

インの場合、当分の間、人間の乗務員が乗るという話だ。しばらくして（人々が忘れたところに）、また無人運転になるのだろうか。その前に、逆送を検知する仕組みを備えるよう改良してほしい。

③ 森林の伐採が進む

【毎日新聞朝刊 2019/5/17 一面】

国有林の民間伐採を拡大する法改正案では、伐採後の植え直し（再造林）が進まない恐れがある。1ヘクタール当たりの再造林費用は平均250万円なのに対し、伐採の販売価格は130万円との現状が示された。

【毎日新聞朝刊 2019/5/25 クローズアップ】

山肌さらす国有林。伐採後の再造林がはかどらない。

【毎日新聞朝刊 2019/6/6 クローズアップ】

改正国有林法成立した。日本木材輸出振興協会によると、中国への丸太輸出は2012年の1.5万立方メートルから18年に94.8万立方メートルと約60倍に急増。

日本の山林では再造林より伐採が多くなり、荒廃してしまっそうだ。

今まで、日本の木材は売り物にならず、間伐材とし

てタダで活用するのがせいぜいであり、手付かずに近い自然が保たれている、という印象を私は持っていたのだが、木材需要の高まりに対応してか、政府は国有林を積極的に売り払う方向に動き、6月に改正国有林法を通してしまった。この改正国有林法は規制を緩めたことになる。国有林を民間業者に伐採させる法律だ。伐採すると、再造林することが必要なのだが、それは業者の義務としなかった。再造林しないと、山野が「げ山」状態のまま、長期間ほうって置かれる可能性がある。再造林のためには金と人手がかかるから……。

再造林の費用は250万円かかるという見積もりに対し、業者に伐採する販売価格が130万円なのだから、現状ではぜんぜん採算が合わない。業者に伐採させればさせるほど、政府は損をすることになるのは問題だろう。政府が後押ししないと、林業が成り立たない実状があるから、業界が政府や与党に圧力をかけたのだろう。業界にかなり有利な法律改正になっている。政府が農水林業を成長産業として位置づけるのは、金をつぎ込む口実だろう。

そもそも森林が減少することの影響は大きい。二酸化炭素の吸収量が減ることで、地球温暖化を加速するものになるし、山に降った雨がどっと流れ下り、洪水

の恐れが増すから、災害につながる。森林には貯水する能力があり、水源としての役割があるのに、それも失われてしまう。雨が降らない日が続けば、下流域では水不足にもなりうる。森林に住む生き物たちの居場所がなくなり、村里に出没するようになる。伐採しないで、むしろそのまま保全するほうがいいと私には思える。

「木材が売れるようになったから、売ってしまえ」というのが、政府の発想だろう。国際的に木材の需要が高まっているらしい。記事では、中国への輸出が拡大していることを挙げている。

中国が日本の森林に目をつけ、どんどん買い取っているわけだろう。国際的に木材として利用できる森林が減少し、あるいは規制され、伐採が難しくなっている。日本は中国への輸出を促進するために、国有林を叩き売っているようなものだろう。国内で利用されない木材なら、どの国に輸出してもいいけれど、少なくとも、政府は再造林のための費用を捻出できる価格で売るべきだろう。

④ 老後2000万円必要という根拠

【毎日新聞朝刊2019/6/11 総合】

夫婦の老後資金として「95歳まで生きるには約2000万円が必要」とした金融庁の試算について、安倍首相「不正確で誤解を与える表現だった」と釈明した。金融庁の報告書は「毎月の赤字額は約5万円」と試算。「赤字額は、自身が保有する金融資産より補填することになる」】

【毎日新聞朝刊 2019/6/13 一面】

「老後2000万円必要」の根拠は厚労省が4月に示したものだ。政府の政策スタンス」と異なっているとして麻生氏は報告書の受理を拒絶したが、実際は従来の政府の考え方を踏襲したものだ。厚労省の課長は2月22日に開かれた厚労省の社会保障審議会企業年金、個人年金部会でも同じ資料を配って同様の説明をしていた。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/13 総合】

6月3日にまとまった報告書は、先月22日の当初安から「公的年金だけでは満足な生活水準に届かない可能性がある」などの表現が削除された。WGの4月12日の議事録によると、民間委員が「（公的年金の給付水準は）はっきり言って低下するのが事実だ」と指摘。別の委員は「節約だけではどうにもならない。マクロ経済スライドからは逃げられない。」

今の高齢者も将来の姿を見据え、運用も含めて資産の維持に努めるべきだというメッセージを明瞭に伝えてほしい」と述べていた。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/18 一面】

金融庁は独自に「30年間で1500万〜3000万円必要」とする試算を行い、金融審議会市場ワーキンググループ（WG）に「事務局説明資料」として4月12日に提示していた。一律ではなく、さらにどれくらい必要になるかを各自で判断し、（退職前に）資産形成することが必要になる」と付記していた。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/19 総合】

公的年金制度に関して与党が訴えてきた「100年安心」の意味を質された麻生太郎金融担当相は、「制度の安心もあるし、年金をもらわれる方のかかなりの部分が安心できる」と述べた。現行制度を形作った2004年の年金改革では、現役世代が納める年金保険料の上限を固定し、収入の範囲内で高齢者への給付水準を自動的に抑制する「マクロ経済スライド」を導入した。そのとき与党は「100年安心」をアピールしたが、今後、給付水準の目減りは確実なため、今では政府はこの表現を使うことを避けている。】

【毎日新聞朝刊 2019/7/7 一面】〔参院選の争点・年金〕

老後「2000万円では不足」を裏付けるような「数字」をニッセイ基礎研究所の高岡和佳子主席研究員が示している。たとえば50代の世帯のうち、老後に生活水準が現役時代と比べて10%以上低下する割合・46%】

「老後の暮らしは年金で大丈夫だ」という認識は、どうやら誤りであるらしい。今後、給付水準の目減りが確実であり、高齢者の生活費は不足することになるという。「約2000万円が必要」というのは、平均的な数値であり、誰もがそれだけ必要というわけではないが、かなり正確な数値に違いない。どんな誤解を与えるというのか。

それにしても大雑把な金額だから、年代別、あるいは正規雇用・非正規雇用別に、それぞれ示してほしいところだ。どの程度の生活水準を保つべきかによって異なるってくる。特に、もともと収入に差がある非正規雇用者の場合は、そうとうに厳しい数値が出るのではないか。

要は「年金だけでは足りない」という不都合な真実を突きつけている。そして専門家たちは口を揃えて「各自で資産形成しろ」とあおっている。2000万円な

ど貯められなかった高齢者としてはぞっとさせられる。政府としては、今まで「今の年金制度は100年大丈夫だ」と言っていたことが、うそになってしまいうから、報告書を握りつぶしたわけだ。選挙前に年金問題などが浮上してしまつては困るのだ。

金融関係者や金融業界から「人々の貯めている資金を投資に回してほしい」という圧力もあって、政府が報告書をまとめさせなければ、それが「年金の危機」を国民に知らしめることになった。年金の給付では足りないから、現役世代も資産を運用することが求められるというわけだ。政府としては、売れないで困っている国債でも買ってもらいたいのだろう。

しかし、高齢者たちは現役のときに、年金のために長期間にわたつて、かなりの額の保険料を「社会保険庁」に納めてきたのだ（ほとんど天引きで）。「いまさら足りないとは、どういうことだ！」

高齢者たちの反発を招いたら、選挙には勝てないことになっている。本年7月の参院選を前であり、自民・公明を与党とする政府としては、年金の問題を伏せておきたいところだろう。

⑤ 天皇が慰安婦に謝罪しろ

【毎日新聞朝刊 2018/10/3 社会】

大阪市がサンフランシスコと姉妹都市を解消した。サンフランシスコに建立された慰安婦像をめぐる、像碑文に「数十万人の女性が性奴隷にされた」などの表現が「不確かで一方向的」とする。】

【毎日新聞夕刊 2019/2/12 社会】

韓国国会の文喜相議長、天皇陛下が元慰安婦の手を握って謝罪すれば「その一言で問題は完全に解決する」と述べていた。】

【毎日新聞朝刊 2019/2/19 総合】

文喜相・韓国国会議長「謝罪すべき側がせず、私に謝罪を求めているのは盗っ人猛々しい」

日本政府が対抗措置を検討していることには「子どもにいたずらのような話だ」】

【毎日新聞夕刊 2019/6/14 総合】

「天皇に謝罪要求」の韓国議長は6月13日、訪韓中の鳩山由紀夫元首相とソウルで会談し、鳩山氏から、その発言が失礼に当たるとの指摘を受け、「心を痛めた方たちに申し訳ないと伝える」と述べた。極度に悪化している日韓関係を考慮した可能性がある。その後の聯合ニュースによると、文氏側は13日の発言について「韓日にはおのおの立場がある

ことに同意し（聞いた人が）心を痛めたのなら申し訳ないと趣旨での発言だ」と説明した。】

韓国国会の文喜相議長は、日本の天皇（このときは平成）が韓国の慰安婦たちの前で頭を下げ、謝意を示せば、慰安婦問題が解決すると主張した。「えー？ そんな簡単なことで、ほんとに解決するの？」と突っ込みを入れたくなる向きもあると思うが、私はかなり有力な解決策だろうと思っている。ここでも（昭和の）天皇の責任論が尾を引いている。

その当時の帝国日本の最高責任者、今は日本の単なる象徴として、万世一系の皇位を継承している天皇が、その被害者に対して「謝ればすむ」という話なのだから、ここは、それに乗っかりたいと思うのだ。これで日韓関係が改善すれば、パッピーパーな話ではないか。代が変わっても、天皇は日本の象徴だから、謝罪には重み（意味）がある。天皇位を継承する者は過去の責任も継承する、と韓国議長は考えているのだろうし、私もそうかもしれないと思う。

たとえ天皇に謝る気はないとしても、形式的に外交辞令としてわびるそぶりを見せればいいことだ。天皇が心からの陳謝をする「演技」ができるかどうかは重

要ではない。韓国側は形にこだわっているのだから、それが「社交辞令」のような空虚な言葉であつても、謝る姿勢を見せることに意味がある。

慰安婦たちは、解決金などの名目で支払われる金ではなく、日本政府の謝罪を求めている。彼女たちは、力づくで否応なしに、あるいは組織的な陰謀によりだまされて慰安婦にされたのだという「認定」を確かなものにした。彼女たちは日本軍に協力したわけでもなく、好き好んで日本兵に体を売ったわけではないことを同胞たちに示したいという事情がある。名誉と尊厳の問題なのだ。中には報酬のためとか、好き好んで体を売った女がいたかもしれないなどという「風評や憶測」は、彼女たちには侮辱になる。彼女たちは、例外なしに、帝国日本軍が加えた、すべて戦争の被害者だと主張する。さもなければ、彼女たちは、同胞や親類縁者たちに顔向けできない立場に置かれる。

数十万人は「盛りすぎの数値」としても、数の多さからすれば、日本の拉致被害者の比ではない。その多くは歴史の影に隠れ、恥を忍んで生きてきたところがある。その一部が高齢者になりながらも、歴史の証言者として声を上げた。日本政府側に謝罪を求めた。しかし、金で解決しようとする日本政府の態度に、いら

だちと無念の思いを強くしている。彼女たちはすでに高齢で亡くなった方が多いと思うけれど、遺族や親族がその意思を引き継いでいる。次々に設置される「少女像」がそれをよく表している。日本政府はその姿に眉をひそめ、あくまでも強制はなかったと言い張る。

文喜相議長が有力な解決策を示したというのに、それに対する日本政府の反応は、彼に言わせると「盗っ人猛々しい」ことだった。つまり、悪事をとがめられて逆にくつてかかっている「広辞苑第六版による」。

政府の幹部連中は「天皇に無礼千万だ」などと言って怒っている。おそらく「韓国の慰安婦ごときに、陛下が頭を下げるなんて、屈辱的だ。とんでもないことをいうやつがいるもんだ。テメーらは日本の天皇を愚弄するのか！」と怒っているのだ。そうでしょう、安倍さん。

6月になって、鳩山由紀夫氏と会った文氏は、一部の日本国民から怒りを買ったことに謝罪を口にしたけれど、「天皇謝罪要求」自体を撤回したわけではない。

⑥ 戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか

【毎日新聞朝刊 2019/5/14 社会

北方領土返還、「戦争で取り返せ」と維新・丸山議

員が元島民にからむ。丸山議員「団長は、戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか、反対ですか？」】

【毎日新聞朝刊 2019/5/23 社会】

丸山穂高議員が「女のいる店で飲ませろ」との発言や、「おっぱい」と言う言葉を口にした。「俺は国会議員だ、ここは日本の領土だろ、不逮捕特権があるんだ」 外出しようとしたが止められた。】

【毎日新聞朝刊 2019/5/31 社会】

丸山穂高衆院議員（35） 5月11日、ロシア人家庭を訪問しコニャックを10杯以上飲んだ。宿舎（友好の家）に戻った後、「北方領土は戦争で取り戻せばいい」などと話した。また、「ネオンがついているところは飲み屋か」「おっぱいもみに行きたい」と外出を図ったが、同行者が止めに入り、もみ合いになった。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/7 一面、総合】

丸山氏の糾弾決議が衆院本会議で全会一致で可決された。事実上、議員辞職をもとめる内容で国会議員への可決は初。5月11日夕〜5月12日午前1時に、国後島のホームビジット先で丸山氏が飲酒し、宿舎の「友好の家」に戻った後、大声を張り上げてコップで机を叩くなどしたほか、元島民に「戦争でこの島を取り戻すことに賛成

か」とからんだ。】

丸山穂高氏は「ロシアと戦争して北方四島を取り返そう」とは直接言っていないが、そうすることに、元島民の人にしつこく賛意を求めていたのだから、良識が問われるのは当然だろう。時と場所をわきまえていない。それは単純な発想であり、ほとんど危険思想だ。その後の彼は、泥酔していたからという言い訳をしたところだろう。

彼には（元島民なら、何としてでも四島を取り返したいという思いがあるだろう）という前提があり、（それなら武力行使に賛成するだろう）という思い込みがあったのだろう。彼には、武力行使すれば、取り戻せるといふ確信があったようだ。

しかし近未来、もしロシアに戦争を仕掛けたら、戦力の差があるから、四島を取り返すどころか、北海道までロシア領になるのが落ちだろう。1945年当時でさえ、ソビエトは北海道に軍を進めようとしたが、アメリカが外交手段を使って強行に押し留めたわけだろう。アメリカには、日本のためというより、共産圏の拡大を抑えたいという思惑（ドミノ理論）があった。

戦争を仕掛けたらどうなるか、少し考えれば、現実

的にそれが不可能であり、法的にも違反することはわかりきったことだ。「团长は、戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか、反対ですか？」という問いに、答えるまでもないことだと考えたらしく、その团长は直接的な回答をせず、はぐらかすような対応をしていたものだから、丸山氏はしつこく問いかけていた。彼は、酔っ払いにからまれて、うんざりしたことだろう。一言「私は反対です」ときっぱり表明すれば、からまれなかったかもしれない。

丸山氏の泥酔ぶりは、みつともないかぎりだ。自分が酒を飲みすぎると醜態をさらす危険があると、それまでの自分の経験からわかっていたはずだろう。自分が酒乱であることが……。『北方領土訪問団』という公式の訪問において、そもそも酒を飲みすぎたのはいけない。ロシア人一家の家庭訪問のとき、おそらく勧められるままに、度数の高いコニヤック（ロシア特産のウォッカではないか？）を10杯以上飲んだという。それではアウトだ。「旅の恥は掻き捨て」の振る舞いになり、国辱ものになってしまった。おそらく、酒を勧めたロシア人は、相好を崩しながら、「飲みっぷりがいいね」と顔で笑っていても、心の中では舌打ちをしたはずだ——（コノヤロー、とっておきの高い酒を

ガブガブ飲みやがって、いいかげんにしてほしい）

丸山氏は、所属していた政党（日本維新の会）から除名された上、議会から議員辞職を迫られることになった。それでも彼はがんばって議員を続けるようだし、次期衆院選に立候補する意向があるという。私は、彼が（酒を飲まなければ、いい人）であることを期待したい。この人に関しては、議会への入場のとき、呼気のアルコール検査が必要だろう。

⑦ 家事を手伝おうか

【NHK総合テレビ 2019/5/24 7時のニュース「おはよう日本」】

家ではいつもぐうたらして何もせず、家事の一つ、育児の一つもしようとしてもしなかった夫が、ある時、台所仕事をしている妻に「何か手伝おうか？」と申し入れた。すると、妻が逆上した。「何よ！ 手伝うとは？」

【毎日新聞夕刊 2019/7/2 あした元氣になあれ】

許せなかった夫の一言

・「誰のお陰で生活できてるんだ」

・「お前の仕事なんてたいした仕事じゃないだろ」

・「私は家政婦じゃない」と詰め寄ったときの夫の

一言「キミは働いていない（稼いでいない）から家政婦以下だよ」】

NHKの朝のテレビ番組で取り上げたのは、『82年生まれ、キム・ジョン』チョ・ナムジュ著の本であり、世界的に女性たちの共感呼び、日本でも翻訳され、よく売れている（図書館で借りて読もうとする人は、予約でいっぱいだから、かなり待たされる）。著者の女性が実体験を基にして小説にしたものだろう。私は本を読んでいないが、そのNHKの番組をたまたま観ていた。

その小説の主人公は男女の役割に疑問をもつ。その中のエピソードの一つに私は注目したい。「家事も手伝う、子育ても手伝う、私が働くのを手伝うって、何よそれ、どうして他人に施しをするみたいな言い方をするの？」

これに多くの女性たちが、もつともな怒りだと共感するという。以下に私が解説（解釈）を加えてみたい。彼女は夫の言い方が気に入らなかった。自主性がないうことや、補助しようという夫の態度が、妻には気に入らなかった。

しかし、夫にも言い分があるだろう。家庭内で余計

なことをしては、妻の職分に対する越権行為になる。

（忙しそうな妻に、暇な自分が何をしてあげればいいか、妻がどんなことをしてほしいか、やはりコミュニケーションをとって進めるべきだろう。他人の仕事に黙ってやるのは、会社ではご法度だ。会社では個々の人に分担されているもので、専門的な他人の仕事が自分ができるわけにはいかない。詳細な打ち合わせをし、意思疎通を図らなければ、まともにできるものではない）

それなのに、声をかけたら、妻が逆上した。
（なぜか？ わからない。これが女のヒステリーというものか？）

夫はだんだん、むかついてくる。自分が何をしたらいいのか。理不尽に怒られている。

（手伝うといったのが、なぜ悪いのか。ヒトが親切に、手伝うといったのに……。手伝ってもらいたくないのか？ 人の好意を無にしやがって……。おまえには感謝する気持ちがないのか？）

さらに食ってかかるものなら、ほっぺたの一つ、張り飛ばしてやりたくなるところだ。

妻の側としては、普段、夫は家にごろごろしているだけで、何もしない。自分は同じように会社に行って仕事をしている。家に帰れば家事をこなし、子供の面

倒を見ている。頑張っている。しかし、夫は家のことを何もしない。何もしてくれない。夫は当然のごとく、自分の忙しさを見て見ぬふりをしている。夫に不満を持ちながらも、口にする事はなかった。

「『手伝おうか』とは、親切ごかしではないか？ それって、気まぐれ？」

今まで何もしようとしなかったグータラさに、むかつく思いが一気に、吹き出す。

「男っていいわね、暇な時だけ『手伝おう』なんて言うんでしょ」

「なにさ、手伝ってやったら、わざとらしく恩を着せたいんでしょ」

「自分の本来の仕事じゃないと思ってるから、手伝うという発想が浮かぶのよ」

理由はどうであれ、妻の怒りの根源は「自分がつまらない仕事を押し付けられている」という不満であり、損な役回りに対する被害者意識にあるのだろう。夫の一言がきっかけで、日ごろの鬱憤うづみんが怒りとなって噴出した瞬間だ。

⑧ オレはひきこもりじゃない

【毎日新聞夕刊 2019/5/28 一面】

5月28日午前7時45分ごろ、川崎市多摩区登戸新町の路上で（小田急線登戸駅近く）、同駅から北西に約1.5キロにある私立カリタス小学校のスクールバスを待っていた小学生らが、襲われた。刺したとみられる男は、自分で首あたりを刺し、搬送先の病院で死亡が確認された。無差別襲撃が後を絶たず。】

【毎日新聞朝刊 2019/5/29 社会、神奈川】

近くに住む40代女性、28日午前7時ごろ門扉を開けて出た女性に気づくと、岩崎隆一容疑者（51）が「おはようございます」と言い、そのまま最寄の駅方面に走り去った。昨夏、早朝に起こされ、「玄関前の庭木の葉が目当たった」と30分以上抗議を受けた。別の女性「大人になってから見かけたのは2〜3回だけ。すっかり白髪が増えた」】

【毎日新聞朝刊 2019/5/31 社会アクセス】

川崎殺傷事件後、ツイッターなどで「他人を巻き添えにせず一人で死んでほしい」「死にたいなら一人で死ね」

藤田孝典・生活困窮者支援のNPO法人の代表は「『死ぬなら一人で死ぬべきだ』という非難は控えてほしい」とネットで呼びかけた。

スクールバスのドライブレコーダーには、岩崎容疑

者が背後から児童らに切りかかる様子が映っていた。中学卒業後の進路も同級生に知られておらず、小学校の担任のコメント「けんかが好き」同級生の女性は「からかわれると真に受けてやり返していた」

中学の担任「特別に仲のよい友人はいなかった」生活指導の教諭から「集団の中でうまく生活するよるうに」と言われていた。」

【毎日新聞朝刊 2019/6/1 社会

川崎殺傷、岩崎隆一容疑者は自殺を前提に事件に及んだとみられる。ためらわずに自分の首を切る。精神科医の片田珠美さんは「拡大自殺」と分析する。】

【週刊文春 2019年 6月13日号スクールバス殺人、

引き金は叔父夫妻の「終活」

神奈川県介護施設関係者「今年二月ごろから叔父夫婦は、川崎や横浜だけでなく、時には西東京方面までタクシーで出かけて、介護施設を見学して回っていました。去年から訪問介護を受けていたものの、介護施設への入所を考えていたようです。事件前に、受け入れ施設が決まったという話を聞きました」
社会部記者「叔父夫婦は、昨年五月にヘルパーの訪問介護を受け入れるにあたり、岩崎の反応を心配し

て一昨年11月に市の精神保健福祉センターに相談していた。家庭内では、叔父夫婦と岩崎が台所などで直接顔を合わせることはないよう日常生活に一定のルールが設けられていた。食事は岩崎の部屋のドアの前に置かれ、時折、小遣いも渡していたようです」

叔父夫婦は今年一月、センター側の助言を受けて岩崎の部屋に一通の手紙を差し入れたところ、本人から口頭で、「自分のことはちゃんとやっている。食事や買い物、洗濯も自分でやっているのに引きこもりとはなんだ」

このやり取りで、叔父夫婦は「本人の気持ちを聞いてよかった。本人なりに考えている」とセンター側に告げ、タクシーで介護施設を見て回るようになった。一方で岩崎は直後の二月に量販店で2本の包丁を購入している。

築57年の2階建の一階にある六畳の和室が彼の根城で、捜査関係者「意外に整理されていた」という。

「岩崎はスマホもパソコンも保有していなかったが、プレステ4のゲームソフトなどがあることが確認された。大学ノートが一冊あったが、「ドッジボールのどっちはどっちだ？」というダジャレが書いてある程度で、捜査員を落胆させた」。メディアが事件

につながる押収物として意味深に報じた海外の大量殺人を扱った雑誌も、部屋の奥から発見されたもので、最近開いた様子は無い。動機を窺わせる物証は残されていない。】

岩崎隆一（51）は、少年のころや、中学生・職業訓練生だったころの学友たちの証言によると、きかん気の強い性格だったようだ。人間関係をうまく構築できず、子供のころから孤立していたのだろう。

一人の教師に「けんか好き」と評されたが、けんかが好きな人間がいるとは思えない。ひどい評価をされたものだが、けんか早かったことは確かだろう。中学の担任教師は「落ち着きぼやのない子だった」と覚えていた。そして怒りっぽい性格は終生変わらなかったようだ。でも、それだけでは精神異常などとは言えないだろうし、多くの人に共通するものだろう。

両親が離婚したことが、この男に人間不信を植え付けた可能性がある。離婚のとき、両親ともに引き取ろうとしなかった。両親にも嫌われたことになる。隆一は、親から見離されたことで、屈辱的な思いをしたことだろう。居場所がなかった。叔父夫婦が仕方なく幼少の隆一を引き取ったものの、厄介者だった。

叔父夫婦には同年代の男女の子どもがいたが、平等には扱われなかった。隆一とその従姉・従兄とは、仲が悪かったと伝えられている。いさかいが絶えなかったが、大人たちに叱られるのはいつも隆一だったとの証言がある。男は継子まこそのものだったと推測できる。

従兄と従姉は、地元の名門・カリタス小学校に制服姿で通ったが、隆一は近隣の公立小中学校に歩いて行かされた。ヘアスタイルにも差をつけられた。従兄は坊ちゃん刈りで、隆一は坊主に刈られた。叔父夫婦としては同じ学校に通わせようとしたかもしれないが、入学できなかった理由が隆一にあったと考えるべきだろう。学力や素行の面で……。でも本当は従兄たちと一緒にカリタス学校に行きたかった、と私は考える。あこがれとやつかみが入り混じった想念が隆一の心にしみついた。

隆一は小中学校に欠席することが多かったという。同級生や教師たちとの折り合いが悪かったと推測される。彼にとつてその小学校や中学校は、嫌な場所であったことになる。それと比べ、従兄たちが行っていたカリタス学校はハイレベルであり、洗練されていた。

隆一は中学卒業後、高校に進学しなかった。おそらく周囲の勧めがあつて、職業訓練校に入った。同じ訓

練生仲間からも、悪評しか聞こえてこない。それでも訓練課程を経た後、その斡旋で機械系の会社に就職した。しかし、長続きしなかったとされる。そのころ麻雀を覚え、十八のときに、JR町田駅近くの麻雀店の店員になった。ときには人数不足の客の卓で麻雀を打ったりした。麻雀に負ければ、おそらく借金地獄に陥るものだ。相手は腕に覚えのある連中ばかりだったはずだ。しかし、彼は麻雀に強く、容易に負けなかったというから、意外な才能をもっていたというべきだ。（私の場合、麻雀に強い方ではなかったから、羨望してしまう）

麻雀は、彼の数少ない趣味の一つだった。麻雀店の仕事は趣味と実益を兼ねることになり、彼にとつては天職だったかもしれない。しかし、甘い仕事ではなかったろう。客に対して勝つてばかりもいられないだろう。客の中には、「イカサマしたんだろー」などと、あらぬ疑いをかけて怒り出す者もいたはずだし、店員は裏の世界にも否応なしにかかわるものだろう。隆一は愚痴も言わず、ヤクザな連中に対応したとオーナーが証言している。

彼はその店で2年間、まじめに働いたとされる。麻雀店は閉鎖され、彼は足を洗うように、やがて実家に

戻ることになった。隆一が30代のときだろう。ちょうど実家には叔父夫婦しかいなかった。以前は大家族だったが、その子どもが社会人になり、早々にその家から出た後、1997年に祖母が他界した。隆一は六畳の部屋に居座った。彼の唯一の身の置き所だった。人とかかわりを避け、「世捨て人」（世間から距離を置き、質素に暮らしている自由人）のような生活を始めた。

それに小言を言ったり注意したりできるのは、叔父叔母ぐらいだが、隆一は彼らと顔を合わせない生活ルールを貫いた。日常のあいさつであっても、声をかけられるのが嫌だった。誰にも文句を言われたい、言わせない。ひっそりと暮らし、テレビゲームで遊ぶのが唯一の楽しみだったようだ。居室にあったテレビゲーム機、プレイステーション4は、いまでも最新機種だ。

一つの近所トラブルが伝えられている。彼が近所を歩いていたとき、家の庭木が道路側に枝を伸ばしていたらしく、彼の目にその枝が当たったことで、彼はその家の者を早朝にかかわらず起こし、文句を言ってきたという。枝の葉が目当たったというのは、ささいなことだ。よけなかった彼の方にも非があるが、庭木の手入れを怠った側が悪いと私には思えるので、丁重

に謝ればすんだことだろう。

月日が流れ、今年(2019年)男は51歳になった。まだ老け込む年齢ではなかった。しかし叔父夫婦に介護の必要性が増してきた。訪問介護の人を家に上げるのを隆一が嫌い、追いつたりしては困ると思い、彼らは隆一の意向を確かめるために、接触を試みた。

1月、岩崎隆一は、叔父夫婦からの手紙に書かれていた引きこもりの言葉に反発した。自分が引きこもりとみなされたことに憤った。最初の手紙はびりびりに破り捨てられた。

引きこもりでないとすると、彼自身、自分をどう思っていたのか？ 長年働きもせず、人を避けるように部屋にいたのだから、引きこもりと言われても仕方がないところだが……。

彼の生い立ち、人付き合いのうまくない性格から、いつも損な役回りを演じてきた。恵まれたものではなかった。叔父夫婦も、それを知っているから、中年になって家に戻ってきた隆一を容認し、無言で、最低限の生活を支えるだけの扶養をしてきたのだろう。叔父にとつては、「ろくでもない弟」の残した忘れ形見が隆一だった。妻から逃げられ、晩年は経済的にも追いつ込まれ、寂しく死んでいった弟の一人息子だから、気

にかけていたわけだろう。できれば自立してほしかった。

二度目の手紙を出すと、隆一が珍しく部屋から出てきて、叔父夫婦の面前に立ち、手紙に対する返事を口で伝えた。「ひきこもりじゃない」と言い張る隆一に、叔父夫婦は「オレは一人で暮らして行ける」という力強い宣言として受け止め、安心したという。「自分らが介護施設に入っても、隆一は一人で生きてゆけるだろう」という確信を得たから、将来を見据えて、訪問介護を受けるよりも介護施設に入る選択をした。

翌2月、介護施設に入所を希望し、タクシーで探し始めた。彼らとしては、この家を処分して入所費用の足しとしたいところだろう。隆一は居づらさを感じてきたはずだ。「オレの居場所がなくなる。この家からも、まもなく追い出される……」

叔父夫婦の入所が、隆一が自殺を思い立ったきっかけになったと考えられる。結果的に、叔父夫婦の思惑とは別の方向に動いたことになる。

5月に、叔父夫婦は入所先の介護施設を決めた。同じ屋根の下にいれば、それは隆一にも気配でわかる。家を売り払うことに關して、自分がとやかく言えることではない。自分に分配の金が回ってくることはない

だろうし、そんな金はいらない。

ふと自分の容貌を鏡で見ると、年齢以上に老けて見えることに驚かされた。〈嫌な感じの初老の男がいる〉自己嫌悪した。乱れた長い髪の毛は、全体的に白くなった。精悍な若者だった面影はもはやなく、やつれていた。〈オレは浦島太郎か。竜宮城でもてなされたような記憶はないが……〉

男は思う、〈部屋に閉じこもっていることに、いいかげん、飽きた。働きもしない厄介者として長年無駄飯を食ってきたが、もう十分だ。何かをしたいとも思わない。このまま老いて行くだけのことだ〉

〈叔父らが介護施設に入らなくても、オレが介護をしてやればいい？ いや、オレはそんなに親切な男じゃないんだ！ さんざん小言を言いまくり、人のことを差別してきたやつらだ。自分のことは自分でしろよ。オレは他人に介護されるまで生きようとは思わん。墓もいらんよ〉

〈でも、死ぬ前に何かしておきたい。何ができるだろう。死ぬにしても、だれかといっしょに死ねればいい。今まで一人で長く暮らしていたんだ、死ぬときぐらいは……〉

そして隆一の脳裏に浮かんだのは、少年の頃、従兄

たちがカリタス小学校に通う後ろ姿だった。恨みやねたみというより、子供心にも、憧れていた。〈自分の身分ではこんないい学校には入れない〉のは理解していた。今は毎朝、児童たちはスクールバスに乗って行くことを知っていた。彼らは行儀よく列をなしてバスを待っていた。

〈そうだ、その列の後ろから切りつけければ、二、三人はいっしょに死んでくれるだろう。これを犠牲というんだろう。殉死かもしれないな。よし、ともかくやってみよう〉

それは隆一にとって、ささやかな願望だったかもしれないが、ターゲットにされた者たちにとっては、ひどい迷惑行為だ。

そのためのナイフを購入した。刃渡り30センチの柳葉包丁だ。隆一が手にすることで最強の武器だ。そして身綺麗にした。理容室に言つて髪の毛を切り、無精ひげも落とした。身なりを整えた。実行日の前には、スクールバス停留所付近の下見をした。

5月28日午前7時、スクールバス待ちの児童・保護者20人を襲撃した。2人死亡、4人重傷……。彼自身は、人々が彼を取り押さえようとした直前に、ナイフで首筋を刺して自殺した。

叔父夫婦が、自殺した岩崎隆一を本人確認のために検分したとき、本人かどうか「わからない」と答えた。彼は自分の部屋に閉じこもり、一月以降、言葉を交わすことも、顔を合わせることもしていなかったのだから、仕方がない。本人確認のために、警察は部屋の中に残された指紋を採取して照合したほどだ。

これは「道連れ殺人」というものだろう。「拡大自殺」という精神科医もいるのだが、それではびつたりしない。「死にたければ、一人で死ぬよ」との声が上がっている。事件後に、ネット上でわきおこった意見だ。メディアもそれを取り上げ、報道した。その残忍な行為を批判する言葉になっている。容疑者といえども、死んだ者に遠慮して、心の中では思っても、これまで口に出して言われなかった言葉だ。しかし、今回の事件で率直にそれが言われたことには、注目したい。

それは、自殺願望のある人にとっては、突き放すような冷たい言い方でもある。でも、他人を巻き添えにしないことが最低限のモラルであり礼節だから、心に留めておくべきだろう。

⑨ オレの人生は何なんだ

【毎日新聞朝刊 2019/6/2 社会】

東京・練馬区で6月1日午後3時半ごろ「息子を刺し殺した」と元農水次官の男から110番があった。【毎日新聞夕刊 2019/6/3 一面】

元次官「家庭内暴力があった」 川崎殺傷事件に触れて「周囲に迷惑をかけたくなかった」

長男の英一郎さん(44)は5月下旬に実家に戻った。【毎日新聞朝刊 2019/6/4 社会】

元農林水産事務次官、事件の数時間前に、隣接する小学校での運動会の音に腹を立てた長男が「うるせえな、ぶつ殺してやるぞ」と言い、注意した熊沢容疑者と争いになったという。

「妻も暴力を受けていた」「自分も身の危険を感じた」「周囲に迷惑をかけたくない」

英一郎さんが中学2年のとき、一家の近くに住んでいた男性「暴力を振るう声や物音が家の外に響いていた」

【週刊文春 2019年 6月13日号元農水次官を】

追い詰めた長男の「真つ先に愚母を殺す」

英昭は1967年に東京大学法学部を卒業すると、旧農林省に入った。三歳年下の女性と結婚後、1975年3月に長男・英一郎が生まれた。3歳になったばかりの英一郎を連れ、アメリカで大使館の書記

官として3年間過ごした。帰国後、一家は新宿区の官舎に移り住み、英一郎は小学校に通う。官舎では、笑顔で廊下を走り回る無邪気な姿が幾度となく目撃されたという。9歳下の妹が生まれてから、英一郎は名門中学を狙って受験勉強に励むようになる。当時を知る元官僚「とにかく奥さんが教育熱心だった。教育ママだった」

英一郎は偏差値70を優に超え、1987年に都内随一の中高一貫校、駒場東邦中学に合格した。

同校の元教師「年に一度の保護者面談の時、お母さんが『英一郎が暴れる』と相談してきました」

当時、英一郎は肩までかかる長髪を輪ゴムでくくっていたという。友達はおらず、部活動にも所属していなかったようだ。このころからすでにゲームにはまっていた。

同「イジメや、身体を壊したこともあったと担任からは聞いていた。学業的には芳しい成績ではなかった。うちの学校でも何年か一人、大学に行かない子供がいるのですが、彼はその一人でした」

高校卒業後、「代々木アニメーション学院に通っています」を本人から連絡を受けた。専門学校は中退したものの、2001年、英一郎は流通経済大学大

学院の修士課程を修了した。ただし、修士論文ではコンピュータグラフィックに関することから、アニメとのつながりがある。

しかし、英一郎は定職に就くことなかったとみられる。ネットゲームとアニメの世界に入ったまま……。

2014年にはコミックマーケットに『正毅の神殿』副題・オリジナルメカ設定画集という作品を出展した。繊細なタッチで描かれたものだ。

父の自慢をする一方で、母のことは「愚母」と呼び、「私が勉強を頑張ったのは愚母に玩具を壊されたくなかったからだ」「中2の時、初めて母を殴り倒した時の快感は今でも覚えている」「殺人許可証とか、もらったら真っ先に愚母を殺す」とツイッターに書き込んでいる。】

【毎日新聞朝刊2019/7/2 総合・社会

元農水次官長男刺殺1カ月。(英一郎が前に住んでいた地域の)近所の人によると、熊沢被告は、一人暮らしをしていた英一郎さんを気に掛けていた様子で、被告は度々訪問していた。今年5月には家の外にあったごみを見て「片付けろよ」と注意し、英一郎さんは「わかってるよ」と応じた。

事件の1週間前の5月25日、英一郎さんは外をう

ろついていると通報が入り、駆け付けた警察官から注意を受けた。直後英一郎さんは実家に戻り、再び家庭内暴力が始まった。

「オレの人生は何なんだ」「ぶつ殺すぞ」

一階和室にこもり大声を出した。熊沢被告は身の危険を感じ、妻に「次に暴力を振るわれたら危害を加える」などと漏らした。

捜査幹部は「同居から短期間で事件に至っている。家庭内暴力だけでなく、川崎の20人殺傷事件や世間体など様々な要素が絡まり、思いつめた結果だったのではないか」と話した。」

熊沢英昭（76）と英一郎（44）、報道に使用された「古い顔写真」をみると、それぞれ「父と息子」と題する芝居を演じるのにぴったりの相貌をしている。以下の文中に彼らが語っているセリフは、私が推測したシナリオによる。

英一郎は少年期の「いさかい」が大きかったようだ。そのきっかけは、厳しい母の存在だ。母が少年の前に立ちはだかった。英一郎は成長してからも、その母を許せなかった。自分のつまずきはすべて母にあると思ひ込む。

教育熱心な母は英一郎を名門中学に入学するために、幼いころから英一郎を叱咤激励していたと推察される。特に英一郎が小学の高学年になると、おもちゃで遊ぶようなことはさせなかった。いうことを聞かないなら、おもちゃ（ゲーム機も含まれる）など、足で踏みつぶして見せた……。

そして駒場東邦中学の入学テストで優秀な成績で合格した英一郎だったが、陰湿ないじめに悩まされたと言えられる。中高一貫高だから、それが6年間続いたことになる。物がなくなり、メガネを割られる……。成績によってライバル心が煽り立てられ、彼は標的になった。彼の協調性のない・妥協しない性格、自己主張の強い態度が誘引したとも思われるが、同級生による陰湿で狡猾、執拗ないじめは、学校側も把握しているながら、見て見ぬふりだったと思われる。英一郎は学校でも、家庭でも、居場所がなかったことになる。

結果論的に言えば、地域から遠く、学力第一で、その他は二の次のような学校に入学したことが問題だった、と私には思える。小学校時代の数少ない友達もそこにはいない。彼の情緒は不安定になり、ますます悪化した。学業に身が入らなくなり、成績が落ちるものだから、教育熱心な母が焦った。彼はさらに強いプレ

ツシャーをかけられたと推定できる。彼は終生、母を恨み「愚母」呼ばわりした。愚母を初めて殴り倒したとき、快感を覚えたなどという、とんでもない告白をネットに載せている。この事件は、父と息子というより、母と息子が主役だったのかもしれない。母の望みは息子を東京大学に行かせ、ひいては政府の高官として名声を上げることだったのかもしれない。それは、もう夫が実現していたことだったが……。

なぜ「愚母」なのか。この母は、愚母どころか、大学で古代史を研究したという才媛だ。言い争いになつては、子どもの英一郎には齒が立つような相手ではなかったと思われる。ある意味では、パワーハラスメントのようなものかもしれない。母は畳み掛けるように詰問した。たとえば、

「なぜこんなことがわからないの?」「なぜこんなことができないの?」

母がわかりやすく言えば言うほど、くどくなり、しつこくなる。英一郎は、聞き入れることができなくなり、反発を強める……。

英一郎にとって、おそらく、自分を不快にさせ、あおりたてるヤツは、みんな「愚か」なのだ。罵倒すること、そんな母に対抗した。そして身体の成長に伴

い、腕力で勝てるようになった。

英一郎18歳のときに統合失調症になり、エリートを出していた熊谷家の、例外的人物に落ちてしまった。卒業後、大学への進路をとらなかつた。大学進学を志望しなかつたのは、名門・駒場東邦校において近年、彼はただ一人の存在として教師たちの記憶に残つたが、それでもなかつた。駒場東邦校卒業時にはつまり修士号を得た。エリートの特権を見せた。

しかし、社会人としての英一郎は、いばらの道を歩んだようだ。社会に適応できない。収入が得られない。母との折り合いが徹底的に悪く、実家から追い出される形で、一人暮らしをはじめた。

英昭は家庭内のトラブルを抱えながらも、順調に官僚の道で出世してゆく。官僚として最高の地位に上り詰める。でも、家庭を十分に顧みることができなかつた「負い目」を感じていたようだ。

英昭は、安定した収入のない英一郎のために、目白に一人住まいの家(3億円物件とも言われる)を与え、生活費など経済的支援を続けた。「自分の好きな道を歩んでいるのだから、いつかは大成し、自立できるだろう。いつかは異彩を放つことがあるかもしれない。

死んでから認められた文人・画家など、世の中にたくさんいる」と常に期待しながら……。

英一郎はろくに働かずとも食べて行けたのだから、他人から見れば、うらやましい生活をしていたことになる。好きなことをやっていた。ビデオを大音響で観たり、ネットゲームをやっていたという。ネット依存症というべきほどに……。ネットでつながる知人も少し増えていた。

英一郎は、世間常識に疎かった。この男はごみの出し方を知らなかったとみえる。社会生活の最低限のルールさえ守れない。いかげんだった。おそらく「ゴミは捨てるもの」と思っていたのだろう。ゴミは分別して決められた時間に、決められた場所に置くものなのだ。（以前、私もそれをよく知らなかった）

大きな転機となったのは、5月25日だ。この日、英一郎はめずしく明るいうちに家の外に出た。家の周辺を歩いていると、物珍しい感覚を覚えた。彼が住んでいた地区は高級住宅街であり、建築も庭の造りも趣向を凝らしたものだ。しかし、ここでは英一郎の風体は異様だった。不健康に太り、髪やひげを伸ばし放題、だらしない着こなし、片側の磨り減った靴を引っ掛けるようにはき、変な匂いもただよわせている。

英一郎の存在はほとんど知られていなかったのだろう。住民の一人に「不審な中年男が物色して回っている」と警察に通報されてしまった。すぐにサイレンを鳴らしてパトカーが来た。駆け付けた三人の警察官に取り囲まれ、その一人が、開口一番「名前は？」。

それから、あれこれ問い質しが始まった。英一郎が逆に質問を発しても、彼らはほとんど無視した。英一郎は自分が不審者と思われていることによく気づいた。「身分証明書を出せ」と言われても、英一郎はそんな類のものを持っていなかった。警察官の尋問は長時間にわたったと思われる。遠巻きに人だかりができるほど……。

〈オレが逮捕されるのを見たいんか？〉

激高しやすい英一郎と警察官がどんなやり取りをしたかは不明だが、彼らは高圧的だったにちがいない。

「署まで来てくれ、任意だが……。抵抗すれば、公務執行妨害だぞ！」

英一郎が「あの家に住んでいるのだ」と指差して主張しても、警察官たちは信用しなかった。それは豪邸ともいえる高級住宅だった。音が漏れないように防音設備もしっかりしていた。警察官たちは怪しんだ（こんな高級住宅には、お前のようなホームレスまがいの

者が住めるはずがない。中を荒らして出てきたところだろ？ 部屋の中がこんな荒れているじゃないか！ それとも、不在だった家に忍び込んで、ネグラにしていたんだろ！」

父の名を出し、資産家の愚母のことを話し、ようやく認めてもらえた。警察官たちは心の中で思う——（へー、元次官にこんなバカ息子がいたんだ）

英一郎は興奮したまま、実家に帰る決意をした。「ヒトを不審者よばわりしやがって、こんな街に住んでいられるか！」

英一郎は、実家に帰ると、荒れた。吠えた。「オレの人生は何なんだ！」

事件の起きた6月1日、父と子が家にいた。母は早々に外出していた。午後、英一郎がペランダに立ち、隣のエリアにある小学校に向けて、「うるさい、ぶつ殺すぞ」と叫んだ。開催していた運動会の騒音がうるさいとクレームをつけたのだ。その叫びが小学校側に届いたかどうかは不明だが、父がすぐに駆けつけ、注意した。

「うるさいと思うなら、『静かにしてください』とお願いするものだ。『ぶつ殺す』などと脅迫するのは、暴言になる。そんなささいな動機で殺人をほのめかす

のはいかん！ 正当防衛にもならん。運動会はそろそろ終わる時間だ。それまで窓を閉めるなりして辛抱しなさい」

こんなことまで、40男に言わなければならぬのかと思うと、なさけなくなった。そして単に脅しでなく、この男はそのうち実際に実行するかもしれないという恐怖感を持った。「英一郎ならやりかねない」——その言葉には真実味があった。彼の心が本気でそう思っている。彼の目がそれを示していた。

注意された英一郎は顔をしかめた。不満やるかたない。「辛抱？ 耐えるだけの人生か？」そして彼はまた、「オレの人生は何なんだ！」と叫びだした。そして英昭の胸を一突きし、「出て行ってくれ！」

英明は英一郎の言葉を心の中で反芻していた。「うるさいから、ぶつ殺すだど？ ぶつ殺すには、もつとまともな理由が必要だろ？ いいかげんな理由でぶつ殺すというな！」

まがりなりにも学校を卒業したら、テメーの人生は自分で切り開け！ これがテメーが選んだ人生だろ。オレから見れば、最低の人生だ。今のテメーは負け犬なんだ。棒に当たって、キャンキャン吠えているだけだ。甘ったれるな！ 自分のふがいなさを、全部他人のせ

いにしたいんだろ？ だれのせいでもない、自分が弱かっただけだ。いくらでも強がつて見せるがいい、そんなことで自分の弱さを隠せるはずがない！

今まで、有り余るような時間を使って、テメーは何をした？ ネットゲームに現を抜かしてただけじゃないか？ ライバル連中を打ち負かし、『バーカめ』と言いたいんか？ 他人を陥れることがそんなにおもしろいんか？ ゲームに勝ってそんなに楽しいんか？ 自己満足したいだけだろう？

オレにはわかつている、テメーがゲームで勝ち上がるのは、卑怯な手ばかり使うときだ。抜け道や裏技のたぐいを駆使してきたんだ、卑怯者め！ 役立たずの穀つぶしめ！ テメーえええ、ふざけるなあああ！ ナニー？、すべて愚母のせいだあ？ そういうテメーはどれほど賢いんだ？ 社会常識もろくに知らず、ルールを守らないのは誰なんだ？ ガキの知能レベルかないくせに、ヒトをバカにするのもいいかげんにしろ！ 人生たあ、どこにでも適応して生きていくことだろがああ！

英明は、「もし、そう言ったら、英一郎は逆上するだろうな、侮辱されるのを一番嫌う男だから……」

逆上させることを恐れた。逆上させたら、手がつけ

られないから、もうどうなるか、わからない。

（こいつがおとなしくしてくれれば、どんなに平和なことか）

英明は覚悟を決めた。

（オレは殺す相手に、前もって『殺す！』などと言ったりしないよ。こういうことは無言実行で遂行すべきだから。

憎しみのこもった眼で人さまに危害を加えることを宣言するような者を、もう生かしておけない。

暴力をふるい、暴言を吐き散らすおまえは、オレにとっても妻にとっても地域住民にとっても、みんなに迷惑なんだ。

熊沢家の恥さらしめ！。

お前の将来に希望はない。何かを期待していたオレが悪かった。妻は期待しすぎた。期待に応えるのも、一つの人生だったはずだ。オレは責任を感じる。妻は無関係だ。オレがすべて責任を取る。

オレが始末してやるよ。お前はもう何もなくていい。土の下で静かに寝ていろ！

午後3時、英明は台所からナイフを手にとって、息子の部屋に訪れた。

一撃されたとき、英一郎はすべてを悟った、父が自

分をぶつ殺すことを。

「父には、父なりの理由があったんだろう。つねにオレより上を行く人だ。今回もオレは先を越されてしまった」

⑩ 調子に乗っているから、みんなでいじめよう

【毎日新聞朝刊 2019/5/18 社会】

公立中学校の男性教諭（48）が、整髪料を付けた3年の男子生徒（15）を指して、黒板に「調子に乗っているから、みんなでいじめよう」と書いたとして懲戒処分。昨年10月、1時間目の授業中に、整髪料をつけた男子生徒を見つけ、注意。黒板の行動目標欄にその氏名とともに書いた。校長が2時間目にそれを見て、教諭に消させたが、その後、生徒は57日間を欠席した。」

自分の姿かたちを少しでもよく見せたいというのは若者らしい。この男子心を、この教師は「調子に乗っている」として、気に入らなかつたようだ。「しゃっけけ出すより、勉強に身を入れろ」と言いたいのだらう。整髪料を多量に使って奇抜なヘアスタイルにしたのなら別だが、この生徒の場合、適量のことだったと

いう前提で話を進めよう。

状況を妄想してみよう――

「山田ア、お前、頭に整髪料をつけているな！」

「はい」

「はいじゃないだろ、整髪料はいかん！」

「なぜですか？」

「なぜって……」と教師は言葉に詰まった。これといった理由が思い浮かばないから、心が乱れる。そして屁理屈をこねだす。

「他のみんなはつけていないだろ」

「よくわかりません、それは校則（拘束）ですか？」

「わからんヤツだな、おれがいかんと言ったら、いかなのだ」

「それが理由ですか？」

「テメー、オレに口答えする気か、コノヤロー！」

問い詰められて、教師は怒り狂ったことだろう。生徒を罵倒しだす――

しかし寝癖の付いたようなバサバサなヘアスタイルより、整髪した方がいいに決まっている。身だしなみと考えば、悪いことではない。それが学業に影響するとも思えない。一般人なら、むしろ整髪することが

必要だ。乱れた頭では、公式の場には出られない。礼儀を失ふことであり、ビジネスの場なら、整髪は必須だろう。その生徒ならずとも、整髪して何が悪い！
といたいところだ。

学校で整髪料を付けることなど、些細なことだろう。行き過ぎた指導の一つにも思える。些細なことまで教師があれこれ指導している様子がうかがえる。たとえ校則や校風にそぐわないことだとしても（この学校はバンカラな校風なのかもしれない）いじめの対象にするほどのことだろうか。整髪することが「調子に乗っていること」だろうか。

髪のに毛に関しては、個性があり、多様性があるものだ。髪の毛の長さ、薄さ、多さ、色あい、ちぢれ具合も、みんな異なると思わなくてはならない。一律にすればいいものではないだろう。規制を加えることには、そうとう慎重に行わなければならない。

おそらく、教師としては、素直に従わない生徒の態度が許せない。腹立ちまぎれに「みんなでいじめよう」と他の生徒を扇動したのは、そうとうにしつこい。性格が悪すぎる。いじめれば、謝る（平伏する）だろうと思っている。級友たちがからかったことだろう。「先生公認のいじめだよ、イェーイ」

教室中の恥さらしにされた生徒のショックは大きかったと思われる。

もし、どうしても従わせようとするなら、それなりの言い訳が必要だろう。生徒が理解し納得するものではないなら、説得できなければ、教師自身の説得力（指導力）に問題があるというものだ。ろくな説明もできず、教師の権威を振りまわし、ああしろこしろと強要するのはダメな見本だろう。指導的立場の乱用であり、パワーハラスメントに通じる。

⑪ いじめは解決した

【毎日新聞朝刊 2019/7/6 社会

岐阜市教委は、7月3日の中3転落死で、いじめを認定した。教諭（30代）は5月31日朝、女子生徒からのメモを渡され、午後に2人の男子生徒を呼びつけた。給食で嫌いな野菜を押しつけたことのみ取り上げ、指導した。それでいじめは解決したと考え、通報のメモをシュレッダーで処分した。学校側はそのメモは紛失したと答えていた。】

【日経新聞朝刊 2019/7/6 社会

女子生徒が5月下旬、担任に渡したノートには、男子生徒が同級生から給食の嫌いな食べ物押し付け

られたことや物をなくされたり、見下すような言動をされたりしたことが時系列に書かれていた。」

【毎日新聞夕刊 2019/7/7 社会】

同級生の女子生徒が担任に渡したメモを、3年の副主任の男性教諭も確認していたことがわかった。副主任は、メモでいじめをしたと指摘される男子生徒2人のうち1人の、2年時の担任だった。担任は「(この男子は)このような行動をする可能性があるか」と尋ねると、副主任は「こういう行動をする可能性もある」と答えた。」

【毎日新聞朝刊 2019/7/8 社会】

岐阜の死亡中3生徒、1、2年時も嫌がらせを受けていた。「他の生徒に嫌なことを言われた」

【毎日新聞朝刊 2019/7/10 社会】

告発を受けて担任が指導した後、いじめが激化した。いじめ側の生徒の言葉遣いや態度が悪くなったことが、死後の校内調査で判明。トイレで土下座させられ、金銭を要求されていたなどの深刻ないじめも、生十数人の生徒たちの証言で判明した。

須永祐慈氏「被害者や告発者を守る対策をした上で指導すべきだった」

【週刊文春 2019 7月18日号 岐阜中3自殺】

県トップ進学校。イジメ集団は自殺後も笑っていた。」

担当教諭は、5月31日午後4人とそれぞれ面談した後、一件落着くと思つて、女子生徒から通報されたメモをシュレッダーにかけて処分した。それは女子生徒が見るに見かねて書いた目撃証言だった。教諭としては、いじめの目撃証言など、無かったことにしたかったのだろう。隠滅だった。この学校では、いじめなど、あつてはならないのだ。唯一相談を受けた副主任も、上位の管理職者に報告を上げることはなかった。結局、落着いたところがコンクリートの上であつたことが、やりきれない。

この約1カ月に、いじめが激化したのだから、担任(学校側)の対応に問題があつたと言わなければならない。その激化の様子が多くの生徒に目撃されていたことが、調査で分かっている。この学校は県でトップクラスの進学校というが、優等生だけではなかったのだろう。

知らぬは教諭たちばかりで、このいじめは公然の秘密であつたようだ。学校内のことだから、いくらうまく人目につかないようにしても、目撃されてしまうのだろう。多くの生徒に目撃されてはいたが、だれ一人、

それを教諭に報告するものはいなかった。見て見ぬふりをしていただけものだろう。自分がその対象にならなければいいと思っっているのだろう。自殺後の調査ということで、その生徒たちも重い口を開いた。

生徒は1、2年のときにも、いじめを教諭に訴えたことがあった。しかし、教諭たちは問題を軽視し、何の対応もしなかったとみえる。「様子を見よう」とするだけだろう。そんな対応に、おそらく生徒は、教師に訴えても、ほとんど無駄であり、彼らは話を聞くだけの存在と認識したのだろう。

しかし、5月31日の朝、一人の女子生徒が立ち上がった。彼女は見かねて、担任教師に時系列に書いたメモを渡した。一つ一つの事例はたいしたことがなくても、数が多い。常習的に行われていたことがうかがえるものだった。

担任は、4人にそれぞれ聞き取りをして、「いじめはない」と判断したのは、いじめられたとされる本人が、問題がないかのように話したからだと説明している。当の本人が「いじめとは思っていない」と答えていた。具体的ないじめの数々など、口にしなかった。それは、告げ口・陰口のようなものであり、言わないことが生徒の間の掟おきてであったのだろう。あるいは「セ

ンコーに言いつけでもしたら、どうなるか、テメー、わかっているだろうな！ ぶつとばす！ 待ち伏せして、叩きのめしてやる！」というような脅し文句が効いていたのだろう。

2人の男子生徒も、教諭の前で自分たちの非を認めたら、処分を食らったりし、親たちに知らされ、どやされたりするから、言い逃れに撤したのだろう。悪知恵が働いているのだ。

給食の嫌いなものを押し付けたことは認めたものの、「もうしない」と誓ったふりをすればいい。だいたい、そんな些細なことはいやがせでもなんでもない。「これ、食べてくれよ」と譲り分けするようなものだ。

物が無くなった・隠されただけでは、特定の者を犯人と決め付けるわけにはいかないから、教諭は追及できなかつたとみえる。また無くなるかもしれない、という発想は浮かばない。

いじめ問題をその日のうちに対応したのはいいが、フオローがなかった。

4人に聞き取りをしたのが5月31日午後で、男子生徒が飛び降りたのが7月3日の朝だ。その間に何があったのか。(もういじめはない)と思ひ込んだ教諭には、ありえないことが起きた。何のための指導だっ

たのか。いじめをあおっただけになっている。

死後に寄せられた目撃証言には、重大ないじめがあった。

・金銭を要求されていた

・便所で土下座させられていた

これだけでも、いじめのすさまじさがわかる。いじめというより暴力行為だ。金銭の要求は、一般的に恐喝になるのだが、彼らは「金を出せ!」とは言わない。

「おこれよ」とか「金を貸してくれよ、いつかきつと返すから」と言って、巧妙に金を巻き上げる手口を使う。ばれたとしても「友達のみみで、おこつてくれたのだ」「そのうち返すつもりだった」と、言い訳できる。金銭を要求することはいじめのなかで一番悪質だ、と私は思っている。巻き上げた側は味をしめて、さらにエスカレートするのが通例だ。これで、いじめが楽しくなる。

生徒が便所で土下座させられていたのは、教諭に通告したことで、なじられていたのだろう。

「どうしてセンコーが知ったのだ? 告げたのは、テメー以外にだれがいるんだ?」

生徒は女生徒の名前を出すわけにはいかなかった。

学校内で数々の暴力行為が目撃されたが、さらに私

が想像をたくましくすると、生徒が2人の悪童に「待ち伏せ」にあつたと考える。

彼を空き地に連れ込んだ悪童らの一人が叫んだ「コノヤロー、裏切り者め、センコーにちくりあがつて、落とし前をつけろ! もう金はないだとお? それなら、テメーのキンxxを出してみろ! パンツを下げちまえ!」

⑫ オレはムシヨに行きたかない

【毎日新聞朝刊 2019/6/20 社会】

6月19日午後1時過ぎ、神奈川県愛川町で、懲役3年8月が確定していた小林誠元被告(43)が、地検の担当者らが彼を収容しに自宅を訪れた時に、刃物を持って抵抗し、車で逃走した。

近くに住む10代の男性「家族の中もよさそうで、優しそうな印象だったのでびっくりした!」

【毎日新聞朝刊 2019/6/22 社会】

逃走した男の知人女性「(厚木から大和に)車で送った」

大和市内には容疑者の知人宅があり、県警は知人宅を転々としながら身を隠しているとみている。【

毎日新聞朝刊 2019/6/23 社会】

逃走の男は、過去にも逃走していた。神奈川県内を転々と知人を頼って、厚木市、大和市へ。

盗癖は顕著で覚せい剤の常習性もあると、1審のとき横浜地裁小田原支部が指摘していた。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/24 一面、社会

逃走の容疑者逮捕。愛川町——厚木市——大和市——鎌倉市——横須賀市に移動し、その知人宅（アパートの一室）に潜伏していた。小林容疑者は、特定の暴力団に属していないものの暴力団員らと関係があったとされる。今回の逃走に際しても暴力団関係者の影が見え隠れする。一方で自宅周辺では、家族を大切にするという評がある。】

包丁を持って、逃げ出したのだから、地域一帯は大変だった。刑務所に行くべき男が包丁を振り回して暴れこまれたら、これまた惨劇になる……。彼が捕まるまで、公共施設などは休園・休校・休館だったという。

地検の担当者の中には警察官2人も含まれていたというから、そこで取り押さえるなりできなかったのはお粗末すぎる。刃物といっても、台所にあったようなナイフの類だろう。彼らは警棒や拳銃などの武器を持つていなかったのだろうか。

星は刃物を振り回しているのだ。遠慮なく射殺することも想定すべき場面だった。たとえ、素手であっても、複数のものが取り囲んで、立ち向かうぐらいの気概をみせてほしかった。

この日だけでなく、二月にも収容しようとして拒絶され、引き返していたことがわかり、「地検の人たちは何をやっているのだ。ガキの使いじゃあるまいし……」と言いたくなくなるところだ。

警察官が立ち会っていたというのに、その後の対応が悪すぎる。車で逃げたのなら、車種やナンバーもわかっていたはずだから、県警を総動員して主要道路などで非常線を張るぐらいのことをするべきだった。（その車では厚木まで逃げた） 関係部署や自治体への連絡も遅かったといわれている。「神奈川県警は何をやっていたのだ」と愚痴をこぼしたくなる。

彼は過去にも収容に素直に応じなかったことがあるというし、常習的な窃盗歴があり、覚せい剤使用の疑いもある。そして実刑が確定だった男を保釈した裁判所の判断には疑問が残る。

この男はなぜ、収容に応じなかったのか。覚せい剤の使用がばれてしまうからとの供述があるが、懲役の年月が少し長くなるだけだろうから、言い訳に近いと

私は思っている。単に「今の暮らしを続けたかったから」という理由だったと想像している。(ここには、いい女がおり、家族に囲まれ、車をただ貸してくれるような友人たちがおり、すきなときに覚せい剤をやつていられるが、ムシヨにはそれらが全然ない) 外向きは無職でありながら、それなりの収入もあつたようだ。

今回、彼の逃走を手助けした人たちは多くいる。ほとんど身一つで飛び出した後、転々と移動していた。発見されやすい公共の乗り物を使わず、知人たちの車で移動し、彼らに寝食を提供してもらっていた。最終的に横須賀に潜伏していたのだから、組織的なつながりがあり、人間関係をうまく活用していたことに私は感心させられた。反社会的ではあるけれど、この男は、人間的な良さがあるということか。

⑬ 札幌・女兒衰弱死

【毎日新聞朝刊 2019/6/8 社会】

札幌市の池田詩梨ちゃん(2)が暴行を受けて衰弱死した。詩梨ちゃんの発見時の体重が平均を大幅に下回り、体中に濃いあざ(タバコの火を押し当てられた跡も)多数あつたことが判明した。北海道警察

は母親の池田莉菜容疑者(21)と交際相手の藤原一弥容疑者(24)を傷害容疑で逮捕した。

札幌市児童相談所は(48時間ルール)を守つていなかった。2018年9月28日、近隣住民が児相に「育児放棄が疑われる」と通報した。

2019年4月5日、同じマンションに住む30代の女性によると、昨年秋ごろ昼夜を問わず、「ママー」「ギャー」という子どもの泣き声を頻繁に聞いた。男の声で「うるせえ」と怒る声も聞こえた。

5月12日には道警にも「子供の泣き声がある」と110番があり、捜査員が面会した際、詩梨ちゃんには複数のあざや頬に約1センチのけががあり、片足の裏にもぼんそうこうが張られていたが、池田容疑者は「転んでできた」と説明。道警は、やせているがけがは軽く、緊急の保護は必要ないと判断し、児相にも虐待が心配される状況でないと連絡した。泣き声は6月2日まで続き、その後途絶えた。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/9 社会】

面会のとき、児相が道警との同行を断つた。「対応可能な職員がない」】

【毎日新聞朝刊 2019/6/12 社会】

詩梨ちゃんは体重6キロ、昨年6月の1歳半の乳幼

児健診の時には体重6・75キロあり、身長68cmだった。亡くなる2、3週間前から食事が与えられていなかった疑いがある。発見時、着用していたのはおむつだけだった。】

【毎日新聞朝刊 2019/6/13 社会 五】

児相は母親を、児童福祉法で特に支援が必要な「特定妊婦」と把握しながら、確認・面会を怠る。莉菜容疑者は未成年で妊娠したシングルマザーで、出産前から認定されていた。児童福祉法は、乳児の養育が適切に行われるよう、自宅で相談や助言といった支援をするよう定めている。莉菜容疑者が今年2月に東区から中央区に転居した際、東区の児相から中央区の児相にその情報が伝えられていた。】

5月12日、道警の警察官らは近隣からの虐待疑惑の通報で母子宅を訪問したが、女兒の健康状態や暴行を受けた痕について実体を見抜けなかった。警察官は、医師や保健師ではないのだから、しかたがない。緊急の保護は必要ないにしても、多数のあざや小さな傷もあつたわけだから、虐待を受けている痕として事実だけはしっかり連絡してほしい。外観を見ただけで、「緊急の保護は必要ない」と判断するのは、僭越だろ

う(越権行為的)。児相にもそう連絡したものだから、その後、腰の重い児相はぜんぜん動かなかった。確かめる必要もなかったのだろう。しかし、女兒は6月2日まで泣き続けた。それを聞いていた近所の人々も、再度110番するには、気が引けたことだろう。児相に電話してもラチが明かない……。

そもそも、幼児を長時間泣かせたままにしていることが虐待だろう。ろくに世話をしていないから、泣くのだ。ただし病気の場合もあるから、泣き止まない場合は病院に連れて行くべきなのは当然だ。

警察官が同行を求めたのに、立ち会わなかった札幌市中央区の児童相談所(児相)の怠慢ぶりは、非難されても仕方がない。記者会見で(道警に同行しなかった理由など)下手な言い訳ばかりして、責任を逃れようとする姿は見苦しい。たとえ忙しかったとしても、優先度があつたはずだ。この女は「特定妊婦」だったことが分かつていたから、一番マークすべきケースだった。東区から中央区に転入した「よそ者」だったにしても……。

母子は、今年2月から中央区に転入した。そのころから藤原一弥容疑者との交際を始めたのだろう。藤原一弥は女兒には冷酷だった。自分の子でもないから：

…。(ろくでもないヤツの子なんだ) などと思う、自分のことを棚に上げて…。

いままで児相の署員が時々接触を求めてはきたが、今回、警察官が訪ねて来たことは、母親にとつて大きなショックだったはずだ。彼女は思ったことだろう——(児相の職員たちは訪ねてこないで、警察に任せている。児童の保護のためというより、虐待事件として捜査しに来たんだ。あたしは犯罪者として疑われている!) (彼らが詩梨のばんそうこうをはがそうとしたとき、あたしは必死になってはがさせなかったけれど、虐待の跡はあちこちにあった。彼らはすぐに見破っていたことだろう)

警察官たちが立ち去った後、莉菜の全身の力が抜けた。彼女は考え続けた(彼らの目はごまかせない。今度来るときは、幼児虐待の容疑で逮捕状を持ってくるに違いない。あたしも共犯になるんだろう)

詩梨ちゃんをよく泣いた。その鳴き声はうるさかった。男が来ると、「うるせえ！」と怒鳴りまくった。いらいらが高じた男は、たばこの火を押し付けたり、体中、あざが残るまで殴りつけ蹴りをいれたりした。すると瞬間的に泣き止むが、さらに大きな声で泣きわめく。男が叫ぶ「莉菜あ、静かにせんかい！ 集中

してxxxできんだろが！」

莉菜は、このアパートではろくに眠れなかった。(うるさいし、手がかかるつたら、ありあしない。もういや！)

外で出会った近所のババアが白い目で見る。挨拶もつっけんどだ。(あたしの育児が悪いと言いたいんだろ。詩梨が生まれてきたのが悪いんだ！ すべて、お前のせいだ)

その後、詩梨ちゃんは吐いたりして服をすぐに汚した。食べれば垂れ流した。(あたしが作ったものを食いたくないのか？ もうお前に食わせる飯はない！ もう裸で泣いている！)

その日から育児放棄した疑いがある。莉菜が仕事や男の家に出かけるとき、詩梨ちゃんを保育園に預けもせず、部屋に入れたままだった。食べるものなど、置いていなかった。

近所の人によると、泣き声が6月2日まで続き、その後は途絶えた。人々は(母親が世話するようになったから、泣かなくなつた)とでも思ったのだろうか。